

にいみなんきち に かえる
新美南吉 『二ひきの蛙』より

「二ひきの蛙(に)をよみながら、
は・わ・が・を・お・へ・えのあうじを()のなかにかきましよう。

さいしよに、緑の蛙(みどり)が目をさしました。土の上(つち)に出(うえ)てみました。

まだほかの蛙(かえる) ()出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春(はる)だぞ。」

と土(つち)の中(なか)にむかってよびました。

すると、黄色(きいろ)の蛙(かえる)が、

「やれやれ、春(はる)になつたか。」

と(つち)いって、土(つち)から出(で)てきました。

「去年(きよねん)のけんか、()すれたか。」

と緑(みどり)の蛙(かえる)がいました。

「待(ま)て待(ま)て。からだの土(つち) ()あらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色(きいろ)の蛙(かえる)がいました。

二ひきの蛙(に)は、からだから泥土(どろつち)を()とすために、池(いけ)のほうに

いきました。

池には新いけしくわきでて、ラムネのようあたにすがすがしい水みず（い

っぱいにたたえられてありました。そのなか（蛙かえるたちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだ（あらってから緑みどりの蛙かえるが目（ぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色きいろは美うつくしい。」

といいました。

「そういえば、きみの緑みどりだってすばらしいよ。」

と黄色きいろの蛙かえるがいました。

そこで二にひきの蛙かえるは、

「もうけんか（よそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間にんげんでも蛙かえるでも、きげんがよくなるものであります。

こたえ

さいしよに、みどり緑の蛙が目をさしました。つち土の上に出てみました。

まだほかの蛙かえる（は）出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春はるだぞ。」

つちと土の中にむかってよびました。

すると、きいろ黄色の蛙が、

「やれやれ、春はるになったか。」

といって、つち土から出てきました。

「去年きよねんのけんが、（わ）すれたか。」

とみどり緑の蛙がいました。

「待まちて待まちて。からだの土つち（を）あらいおとしてからにしようぜ。」

ときいろ黄色の蛙がいました。

に二ひきの蛙は、からだからどろつち泥土を（お）とすために、いけ池のほうに
いききました。

いけ池には新あたしくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水みず（が）い

つばいにたたえられてありました。そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんとどびこみました。

からだ(を)あらってから緑の蛙が目(を)ぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんか(は)よそう。」
といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものであります。